

# 北海道えりも町近浦における コカマキリ *Staltia maculata* (Thunberg, 1784)の採集記録 (短報)

菊地那樹<sup>1)2)</sup>

## キーワード

コカマキリ, えりも町, 北海道, 分布拡大

## はじめに

2024年10月, 北海道幌泉郡えりも町近浦において, コカマキリ *Staltia maculata* (Thunberg, 1784) の雌個体を採集したため報告する。

カマキリ目は日本国内で外来種を含む3科7属13種が知られており, 北海道では以下の6種の採集・観察例が報告されている(中峰, 2021; 山本ら, 2025): ウスバカマキリ *Mantis religiosa sinica* Bazyluk, 1960, コカマキリ, カマキリ(チョウセンカマキリ) *Tenodera angustipennis* Saussure, 1869, オオカマキリ *T. sinensis* Saussure, 1871, ハラビロカマキリ *Hierodula patellifera* (Andinet-Serville, 1839), ムネアカハラビロカマキリ *Hierodula* sp.

コカマキリは北海道では移入種と考えられており, これまでに上ノ国町で1例(坂田, 2013), 札幌市で2例(小川, 2013; 井村, 2018)が報告されている。なお, 小川(2013)では北海道新聞に紹介された新ひだか町静内高砂町での記録も付記されているが, 筆者は未確認である。本報告は北海道における4例目の記録となる。

近年, 気候変動や人為的要因により, 移入種の分布が変化しつつあることが懸念されており(山本ら, 2025), 本記録もその一端を示すものとして重要であると考えられる。

## 採集記録

えりも町近浦の国道336号線沿いの草むらにて, 雌のコカマキリ1個体を発見・採集した(Fig. 2, 3)。以下に詳細なデータを示す。なお, 本標本は北海道大学総合博物館に所蔵されている(Fig. 1)。

## 採集データの詳細

Japan: Hokkaido, Horoizumi, Erimo, Chikaura,  
(alt. 4 m), 42.0616N 143.0691E,  
24 X 2024, T. KIKUCHI leg.  
on weeds along roadside

## 考察

採集時に周囲を探索したが, 追加個体は確認されなかった。また, 2025年も同地点を再調査したが本種の個体は確認されなかった。さらに, 本個体の採集後に飼育を行った結果, 卵を得ることができたが, 適切な環境で管理し

ていたにもかかわらず孵化には至らなかった。交尾の有無は不明である。これらの結果から, 当該個体が自然分布として定着していた可能性は低く, 人為的に持ち込まれたものであると考えられる。

近年, ペットショップ等でカマキリ目の卵嚢が流通している事例も確認しており, 飼育個体の逸出, あるいは北海道外からの貨物に混入した可能性が考えられる。

本報告は, 北海道における本種の分布状況を把握する上で有用な資料となるとともに, 移入種の分布拡大の実態を今後も注視していく必要性を示唆するものである。

## 文献

- 井村洋介, 2018. 札幌市でコカマキリを採集. *jezoensis*, (44): 31.  
小川浩太, 2013. コカマキリの札幌市初採集記録. *jezoensis*, (39): 26.  
坂田潤一, 2013. せたな町北檜山区兜野でオオカマキリの観察. *jezoensis*, (39): 108.  
中峰 空, 2021. Order Mantodea 螳螂目(カマキリ目). 日本昆虫目録第3巻(日本昆虫目録編集委員会編), Pp. 72–74.  
山本亜生, 小田桐亮, 山崎真実, 2025. 道央地域におけるカマキリ目の記録. 小樽市総合博物館紀要, 38: 7–11.



Fig. 1 採集されたコカマキリ雌個体

1) 北海道大学総合博物館 〒060-0810 北海道札幌市北区北10条西8

2) 株式会社建設環境研究所 札幌支店 〒060-0033 北海道札幌市中央区北三条東3-1-30 KNビル2階



Fig. 2 採集環境



Fig. 3 採集時の状況